



①ほっとするね 緑の府中

府中市

指導室だより

- 第91号 -
(平成24年1月発行)

【編集・発行】

府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24

電話 042-335-4063

子供の豊かな心を育てましょう ～読書活動の推進～

私たちは、本から様々な知識を得たり、物事を深く考えたり、楽しみを享受したりすることができます。

読書は、書かれている内容を理解し、自分の経験や感情と照らし合わせて思考することで、深く内容を理解するとともに、言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を高め、知性や感性を豊かなものにします。

幼いころから読書の習慣を身に付けていくことは、「生きる力」をはぐくむ上で重要な要素となる「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」などを育てるとともに、情操を豊かにはぐくむという人間性の向上につながるものと考えられています。

読書の習慣は、あらゆる時と場をとらえて、子供たちが本と触れる機会を増やすことで形成されていきます。学校から配布される「図書リスト」や「学校図書館だより」、新聞の読書コーナーを活用するなどの方法で子供たちと一緒に読書を話題として取り上げ、ご家庭でも読書活動を推進し、豊かな心を育てましょう。

<学校図書館の役割(例)を紹介します>

【読書センター】

子供たちの読書に対する意欲を高め、習慣化を図るために、小学校低学年では本のおもしろさに触れるようにしています。

また、小学校高学年や中学校では、自分を豊かにすることをねらいとした読書指導を工夫するようにしています。

【学習情報センター】

学校図書館で所蔵している情報を社会や理科をはじめとした教科の学習や総合的な学習の時間で活用し、学習上の課題や疑問を“自ら調べ解決する力”を育成するよう努めています。

また、情報を目的に合わせて「収集する」「取捨選択する」などの“学び方”も身に付けられるように努めています。

図書委員による本の紹介コーナー
(中学校)



学校図書館の調べ学習コーナー
(小学校)



第3回中学生「東京駅伝」大会が開催されます

この大会は、都教育委員会が主催する区市町村対抗形式の駅伝競走で、「学校や部活動の垣根を越えて高い目標に向けて切磋琢磨することにより、健康増進・持久力等の体力向上、公正・協力等の態度の育成、努力・忍耐力等の精神力の向上に資する」ことをねらいとして開催され、各地区の中学校2年生から選抜された代表選手が、男子は42.195kmを17人、女子は30kmを16人で「たすき」をつなぎます。

前年度は、東日本大震災の影響で中止となりましたが、平成21年度に開催された第1回大会では、府中市代表チームは男子の部で第6位入賞という大活躍を見せました。

今年度は、50区市町が参加しますが、府中市からは市立中学校全校と明星中学校の12校から選抜された代表選手が出場します。また当日は、市立中学校生徒が応援イベントとして和太鼓の演奏を行います。

ぜひ当日、多くの方々にご来場いただき、府中の子供たちの活躍に温かいご声援をいただければありがたいです。

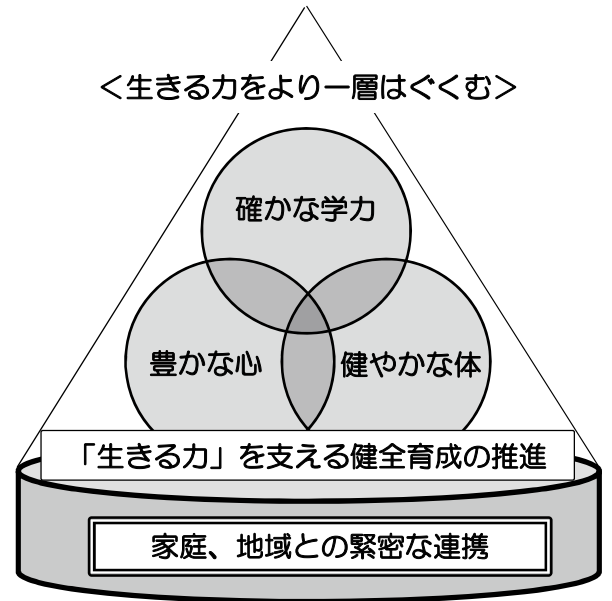
第3回中学生「東京駅伝」大会の概要

- 日程 平成24年3月20日(祝)
- 会場 味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園特設周回コース
- スケジュール
 - ① 開会式 午前9時30分
 - ② 女子の部スタート 午前10時
 - ③ 男子の部スタート 午後1時
 - ④ 応援イベント「和太鼓」出場校
府中第二中、府中第三中
府中第四中、浅間中
 - ⑤ 閉会式 午後4時

学校、家庭、地域社会が一体となっはぐくむ「豊かな心」

学習指導要領には、「生きる力」の重要な要素として「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3点が示されています。「豊かな心」を育成するためには、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を培う必要があります。また、生きるものの意味や価値を考えることは、人間としてよりよく生きようとする意志や「確かな学力」「健やかな体」を主体的に伸ばそうとする意欲の育成につながります。

子供たちの豊かな心は、学校、家庭、地域社会を含めたすべての環境や人々とのかかわりによってはぐくまれます。特に、基本的な生活習慣の確立や規範意識等の道徳的な価値観を育てるためには、家庭や地域社会の果たす役割はとても重要です。



◆ 学校における道徳教育

学校は、子供たちの豊かな心をはぐくむとともに、社会の形成者として必要な資質等を培う場となります。そのためには、子供たちが掛け替えのない存在として大切にされ、様々なかかわりの中で、学校の集団生活の場としての機能を生かし、全教育活動を通じて道徳教育の一層の充実を図る必要があります。

◆ 道徳の時間

週1回、年間を通じて35回程度行われる道徳の時間は、学校における道徳教育の要＜かなめ＞となるものとして位置付けられています。

ここでは道徳の時間の実践事例として、シドニーオリンピックの女子マラソンで金メダルを獲得した高橋尚子選手の競技生活を描いた資料を基に行われた小学校4年生の授業を紹介します。

授業では、高橋尚子選手の著書を読んだ後、「努力、粘り強さ」などの価値について教師が発問し、教師と子供たち、あるいは子供たち同士の間答を通して、ねらいとする価値に迫っていきます。

この授業を受けた児童は、次のように感想を述べていました。

「もしぼくが高橋選手だったら、すぐに横はらがいたくなりそうで、すぐにやめてしまうけど、高橋選手は、そこをこらえてがんばっていたんだと思います。ぼくも、毎日やっているすぶりを40回から100回にかえても、いっしょうけん命やらないといけないということが分かりました。」

このことから、道徳の時間を通じて「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる」ことを主題として、あきらめずに取り組むことの意義や、今よりよくなりたいと願い、努力しようとする姿勢を学ぶことができたことが分かります。

子供たちの生活の中で立ち止まり、人間としての在り方や生き方の自覚を深める道徳の時間は、子供たちの豊かな心をはぐくむために、とても効果的な時間となっています。

ご家庭でも、適切な題材を取り上げて子供と一緒に考え話し合ったり、機会をとらえて子供の努力を励ましたり賞賛したりしていただくことが、豊かな心の育成に大きく寄与することにつながります。



◆ 家庭は、人間としての「生き方の基本」を学習する場です

家庭は、子供たちが人格の基礎を形成し、豊かな心をはぐくんでいくために、何よりも大切な場です。子供たちの心は、保護者との基本的な信頼関係をはぐくみながら、様々な生活体験を積み重ねることで発達します。たとえば、家庭において身に付けるべき「他者への思いやり」「善悪の判断」等の価値観は、成人後の人生の在り方そのものに影響を与えていると言われています。家庭生活の中で、善悪についてしっかり判断し、人とかかわりの中で嘘をつかない、人を傷付けないなど、人間として絶対にしてはならないことがあることを子供たちの発達段階に応じて繰り返し学ぶことを通して望ましい習慣形成を図り、豊かな心をはぐくんでいくことが重要です。家庭において、人間としての生き方の基本をどのように学ぶかということは、子供たち一人一人の成長にとって大変重要な意味をもっています。

また、基本的な生活習慣の定着は「学力」とも深くかかわり、重要な要素であることが分かっています。子供たちの基本的な生活習慣は、乳幼児期からの家庭生活を基盤として形成されます。そのため、「早寝早起き朝ごはん」や「あいさつ」「食事の仕方や整理整頓」など、日頃の家庭生活の中で繰り返し学び、しっかりと身に付けていくことが重要です。乳幼児期からの積み重ねを柱として、地域生活や学校生活など、活動範囲の広がりとともに他者とかかわりや集団生活を経験することで、望ましい基本的な生活習慣の定着が図られます。

◆ 地域社会で子供を育てる

「東京の子供たちの豊かな心の育成に関するアンケート調査（平成23年6月東京都教育庁指導部）」によると、社会のマナーやルールを守れない子供たちが増えた原因として、上位に挙げられたものは次の5点です。この調査結果から、親や回りの大人が責任をもち、子供たちに社会の基本的なルールをきちんと教えていく大切さを読み取ることができます。

「心の東京革命推進協議会（青少年育成協会）」は、子供たちに教え伝えていくべき「心の東京ルール・7つの呼びかけ」を提案しています。家庭、学校、地域及び社会全体がそれぞれの立場で具体的な実践を行い、状況に応じて手を携えながら、「子供たちの健全育成」という共通の目標に向け、同一歩調で粘り強く子供たちに働き掛けていく必要があります。

社会のマナーやルールを守れない子供たちが増えた原因

選 択 肢	回答率
正しい社会のルールやマナーが身に付いていない大人が増えているから	78.2%
子供が悪い行為をしたときに、きちんと叱れる親が減っているから	75.4%
地域に他人の子供でも叱ってしつける大人が減っているから	56.1%
しつけを学校だけに任せる親が増えているから	55.6%
少子化や核家族化により、世代間で交流する機会や兄弟姉妹間で触れ合う機会が減っているから	53.8%

「心の東京ルール・7つの呼びかけ」

- 毎日きちんとあいさつさせよう
- 他人の子どもでも叱ろう
- 子どもに手伝いをさせよう
- ねだる子どもにがまんをさせよう
- 先人や目上の人を敬う心を育てよう
- 体験の中で子どもをきたえよう
- 子どもにその日のことを話させよう

《あいさつ運動の取組》

「おはようございます！」

子供たちが校門に立ち、元気にあいさつをしています。市内には、代表委員や生徒会役員などが中心となって「あいさつ運動」を行い、明るく元気なあいさつを交わすことで基本的な生活習慣の定着を図っている学校が数多くあります。

また、小・中学校が連携し、「あいさつ運動」などの共通実践を通じて、基本的な生活習慣確立に向け、地域から信頼される存在となるよう取組みを推進し、9年間で家庭・地域とともに子供を育てる小・中一貫教育に取り組んでいる地区もあります。



TOPIC (最近の話題から)

「府中の教育を語る会」「人権作文発表会」を開催しました

1月5日(土)開催の「府中の教育を語る会」では、東日本大震災の経験をもとに防災について子供、保護者、学校関係者及び防災関係者がそれぞれの立場から意見を発表し、「自助」「共助」をキーワードに会場全体で防災に対する考えや心構えを深めることができました。

また、12月10日(土)開催の「人権作文発表会」では、24人の小・中学生の発表に「思いやりの輪を広げることの大切さを知った」と声が上がるなど、満場の聴衆も深く感銘するとともに、人権尊重の社会実現のために必要なことを深く考える貴重な機会となりました。

ご協力いただいた多くの関係者の方々に感謝申し上げます。



オンリーワンの学校づくり ～市立小学校、幼稚園を紹介します～

南町小学校

「警視総監賞を受賞！」



1月15日、南町小学校児童会が警視総監より感謝状をいただきました。これは、永年の交通安全への取り組みが評価されたものです。これまで府中市や東京都の自転車競技会に向けて警察や地域の方々と連携・協力して練習を重ね、上位入賞を果たしてきました。また、交通安全教室や地区班登下校等、日常的に子供たちの交通安全への意識を高めてきたことも評価されました。学区域には、交通量の多い道路もありますが、大きな事故がないのは、高学年の児童が手本となって地区班登校をしていることも成果として挙げられます。今後も「自分の命は、自分で守る」を合言葉に安全への意識を高めていきます。

小柳幼稚園

「自然大好き
小柳っ子！」



小柳幼稚園の近くには多摩川があり、季節を肌で感じる教育活動を行っています。毎年、土手に行って手作りのダンボールボードを持ち、土手すべりを楽しんでいます。はじめは土手の高さには少し怖さがあった年少組も、友達の滑りに刺激を受け、繰り返し挑戦して楽しむことができました。年長組になると、サーファーのように立って滑る子が増えてきます。それぞれが工夫して滑り、友達同士で刺激し合いながら経験を積んでいきます。草の香りを感じ、季節の移り変わりや木々の様子、虫の音を聞きながら、自然の中で伸び伸びと大きく育つことを願っています。

矢崎幼稚園

「野菜 大好きっ子」



矢崎幼稚園では、園内の畑で年間を通して園児が土に触れ、野菜を育てる栽培活動を積極的に行っています。3月のじゃがいも植えに始まり、ミニトマトやきゅうり、さつまいもの苗を植えたり、大根の種まきをしたりして育てた野菜を収穫し、みんなで調理して味わっています。

大根の収穫では、園児それぞれが1本ずつ抜く経験をすることができました。踏ん張って踏ん張って大きな大根がやっと抜け、みんな収穫の喜びを体感していました。

自分たちが育てた野菜を食べることで、野菜が大好きになった矢崎幼稚園の園児です。

みどり幼稚園

「お兄さん・お姉さん
との交流を深める」



みどり幼稚園では、府中第二小学校との交流を積極的に行っています。広い校庭で遊んだり、1年生と学校探検をしたりします。5年生との交流給食も行います。

一方、みどり幼稚園の運動会には、二小の6年生が準備係や園児係として参加し、用具の準備や片付けをはじめ園児の手伝いを行い、一部の競技にも参加します。こうして小学生と楽しく活動し、園児は憧れの気持ちを持ち、小学生になることへの期待感も高まっています。

これからも園児と小学生との交流を深め、思いやりのある元気な子を育てていきます。